志決定ができる十分な情報が，与えられねばなりません。それにはまず，各教科・科目ごとの，学習のつまずきがどこにあるのか，がガイダンスされねばなりません。また，各テストの結果，学力の成就水準はどこにあるか，あるいは，各習熟度別学級の教育課程の内容，授業の進め方，到達目標，教え方，学習の仕方など，教科担任やホームルーム担任などにより，くわしくガイダンスされるべきでしょう。

4　進路指導は，たんに，どこの大学に入れるかとか，どこの会社に就職できるかという点からだけでなく，生徒の興味や関心を土台とした生涯の生活設計，という点からのガイダンス，つまりキャリア・ガイダンスが必要でしょう。キャリア・ガイダンスについては，さらに後述します。

5　とくに，学習不適応の生徒については，ホームルーム担任を中心に学習カウンセリングが行われることが必要です。この点も後述します。

6　ガイダンスの機会は，合格発表通知，新入生オリエンテーション，入学式父兄会，ホームルーム時のほかにも，説明会などを適宜設けて，資料を準備し一人ひとりに徹底するよう，計画されねばなりません。また，個人面接や集団面接によるカウンセリングも有効でしょう。

27　キャリア・ガイダンスの考え方について知りたいのですが。

今日の進路指導のあり方について，改善すべきところが多いということは，周知のところですが，その改善策を考えるに当たり，アメリカのキャリア教育運動が，大変参考になると思いますので述べてみます。

(1)　進路指導の歴史の概要と現況

「進路指導」ということばは，従来は「職業指導」といわれていたもので，大正4年に，東京帝国大学の入沢宗寿が著書「現今の教育」に，vocational guidance を「職業指導」と訳し，わが国に初めて導入しました。